



IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI

7月12日(火)に2年生を対象に、人権・同和教育の特別講演が開催されました。瀧本先生のコーディネートのもと、1年生保護者の小寺智恵さんにご来校いただき、「障がいを抱えながら生きるということ」という演題でご講演を賜りました。明るく前向きな息子さんと、温かく見守り支えるご家族の想いや、障がいに対する根本的な問いかけ、「障がいて何だろう?」ということについて、「数学が苦手」「泳げない」ということと同様で、できないことはあるけれど、それも個性の一つであって、人と人の温かいかわりや支えによって補っていけば「障がい」ではなくなるんだよという力強いメッセージをいただきました。生徒たち一人ひとりも真剣に聴き入り、いろいろなことを感じ、考えて、自己の生き方と照らし合わせて行動に結びつけていく意欲が育ったように思います。小寺さん本当にありがとうございました。



アンケートの集計結果です!

質問項目	回答の選択数	アンケート結果		比較	
		事前	事後		
Q1 障がいについて、今までに見たり聞いたりして、知識を持っている。	とても該当する	9.7%	⇒ 12.3%	増加	今回の学びや、関心の度合いの高まりを示す
	やや該当する	49.7%	⇒ 54.8%		
	あまり該当しない	31.5%	⇒ 27.7%	減少	回答への無関心・無意欲の解消
	全く該当しない	1.2%	⇒ 0.6%		
よくわからない	7.8%	⇒ 4.5%			
Q2 障がいは病気やケガと違って回復できないので、とても不幸なことである。	強く思う	22.4%	⇒ 15.5%	減少	「障がい者=不幸な人」という偏見や誤解の解消
	やや思う	31.5%	⇒ 24.5%		
	あまり思わない	30.3%	⇒ 37.4%	増加	人とのつながりで補うことで障害でまわなくなることへの気づき
	全く思わない	6.1%	⇒ 16.1%		
よくわからない	9.7%	⇒ 5.8%	減少	回答への無関心・無意欲の解消	
Q3 健常者はいつとも障害者のことを気にかけ、積極的に手助けをしてあげることが望ましい。	強く思う	43.0%	⇒ 41.3%	主流意見の逆転	障がい者が困っている現場に遭遇した時は純粋な思いから気にかけて、手助けすることが望ましいが、逆に特別扱いすることまかえて障がい者を傷つけたりすることにもつながるということへの理解が深まった
	やや思う	38.2%	⇒ 43.2%		
	あまり思わない	10.3%	⇒ 9.7%	減少	回答への無関心・無意欲の解消
	全く思わない	0.6%	⇒ 0.0%		
よくわからない	7.9%	⇒ 5.8%	減少	回答への無関心・無意欲の解消	
Q4 健常者は障害者を特別扱いせず、自分たちと同じように扱い、接すればよい。	強く思う	35.2%	⇒ 40.6%	増加	特別な存在としての過度な気遣いは不要であり、仲間として接することの大切さを理解
	やや思う	40.0%	⇒ 43.9%		
	あまり思わない	12.1%	⇒ 7.7%	微増減	どのように接していくことが大切かを真剣に考えようとする意欲の表れ?
	全く思わない	0.6%	⇒ 1.3%		
よくわからない	12.1%	⇒ 6.5%	減少	回答への無関心・無意欲の解消	
Q5 障害を抱えながら生きている人のことを学んでも、自分の人生にはあまり関係がない。	強く思う	5.5%	⇒ 5.2%	減少	自分のこととして考えてみようとする意欲に結びついた結果
	やや思う	7.9%	⇒ 7.7%		
	あまり思わない	38.8%	⇒ 34.8%	大幅増加	態度が曖昧だった人の意見が他の意見に移行した 自己の行動に結びつけて考えようとする意欲の表れ
	全く思わない	35.8%	⇒ 43.2%		
よくわからない	12.1%	⇒ 9.0%	減少	回答への無関心・無意欲の解消	
Q6 障害を抱えながら生きている人のことを学ぶことは、自分の人生にとっても大いにプラスになる。	強く思う	37.0%	⇒ 44.5%	増加	相手の立場に立って、相手の気持ちを取りながら接していくこと、そして偏見や誤解を持たずにこの社会に共に生きる存在として尊重すること、という、人と人の関わり方の基本を学んだ成果の表れ
	やや思う	41.8%	⇒ 42.6%		
	あまり思わない	8.5%	⇒ 7.1%	微増減	回答への無関心・無意欲の解消
	全く思わない	0.0%	⇒ 0.6%		
よくわからない	12.7%	⇒ 5.2%	減少	回答への無関心・無意欲の解消	

講演から学んだこと・感想・・・

今日の講演を聞いて、障がい者の方についてたくさんの知識を持つことができよかったです。障がいを持っている人の親の話を知ることは初めてだったので、どんな話が聞けるのか楽しみでした。ちょっと体に障害があったりするけど、やはり普通の人と何一つ変わらないという言葉が胸に刺さりました。だから、壁を作らず普通に接するのが相手にとっても嬉しいことがわかり、今まで自分が思っていたことが少し変わりました。ジグソーパズルの話にたとえられた話で、互いの個性を補い合って生きていかないといけないなと思いました。この話はこれから自分が社会に出てからいろんな人と出会ったときにしっかり心の中に覚えておきたいと思いました。

今日の講演を聞いて、今まで自分にはなかった考えを持つことができました。小寺さんが言うておられたように、“障がい”というのは“できないこと”が周りの人より多かたたりするだけであって、周りの人が手を差し伸べてあげて、その“できないこと”を補ってあげれば、何ら変わらず私たちと同じであるんだと思えました。“障がい”というのは、周りの人の考え、助けによって軽くしてあげることができるのだとわかりました。でも自分はだからと言って何でもしてあげるといのは違うと思うので、まずは相手のことをしっかり理解する必要がありますと思えました。

障がいを持っている人を見かけて気遣うのは良いことだと思いつけど、だからといって特別扱いするのはよくないことなのかなと思った。自分たちにできることは他の人と同じような感覚で生活し、その中でも思いやりの心を持ちながら、助けが必要な時に手助けをすることだと思った。

今回の人権の講演を聞いて、障がいを持っているからどうかでなく、皆同じ人なんだということを改めて感じました。もっと相手のことを考え、自分がその立場に立ったらどうなのか、相手の気持ちを考えて人と接していきたいです。